

私の職場における職務意欲の向上策について

久々野営林署 新井正孝

1. はじめに

国有林野事業経営改善実施計画が打ち出されてから3年、我が千間樽製品事業所においても、それを受けて作業仕組の改善、他事業との連携などを図り「ムリ」「ムダ」「ムラ」の排除及び副作業の減少に努めているところである。本年度は他事業との連携によるほか全木集材も実行した。

しかし近年、作業現地の奥地化、伐区の分散化、良質資材の減少、加えて作業職員の高令化等、労働生産性の向上を阻害する要因が山積している。

こうした条件の中で、より労働生産性の向上を図るために、「前向き対策は如何にしたらよいか」「何か現状を打破して、実行しなければならない事が無いか」を議題に年度当初全員で検討した結果、作業仕組の改善及び他事業との連携等の推進はもち論必要であるが、これらを進めていくためには、今まで以上に各人が健康で、励みのある職場、やる気の起きる事業所に育てなければならないと言う結論を得た。

結局、自分達の仕事に自信と誇りを持ち、そして毎日の仕事に励みが持てるようにする必要がある。

励みのない職場では「仕事の不愉快」「上司の命令だから仕事をする」と言った精神状態では、労働生産性の向上は望めるはずがない。(別図参照)

そこで、我が事業所では、労働生産性の向上にむけて、重要な因子となる、「職場意欲の向上を図る」ということに主眼を置き、次の事項について、年度当初目標を掲げ実行した。

2. 目標及び実行内容

(1) 作業計画への参画

- 作業職員一人ひとりが作業計画を知る。
- ア 年間の作業計画は年度初めに、主任から説明を受けるが、毎月の作業予定等についても、毎月説明を受け、作業職員一人ひとりが、いつ頃何をしたら良いのかを知って仕事を進めた。
- イ 毎朝各班長は、主任、指導員から、その日の仕事について指示を受け、朝のTBMにおいて班員に説明した。

- (2) 作業の進行状況のチェックと対応策の検討
- 作業の進行状況が目に見えるようにする。
 - ア 毎月の月産目標はもち論、週の目標をたてて、それを完遂すべく実行した。
 - イ 進行状況、能率給の達成度等についても月々チェックをした。
- (3) アイディアの開発
- 創造性の育成向上を図る。
作業に関する、いろいろな創意工夫を、頭から否定することのないよう、主任、指導員を含め、班全員で検討をした。
- (4) 安全行動目標の設定
- 署、事業所の安全目標以外に、作業職員一人ひとりが年間の安全目標を設け、それを守るべく実行した。
- (5) 健康管理の充実
- 自分の体は自分が守る、をモットーに、労働災害はもち論、私傷病についても減少を図る。
- (6) 職場環境の整備
- 休憩小屋等は常に清潔に保ち、毎日気持ちの良い職場で仕事をする、という事で、安全当番が毎日休憩小屋を清掃した。
- (7) 意思疎通の場を広げる。
- ア 事務所と現場作業職員との意思疎通を図る。
事務所は山泊、作業職員は通勤という事態の中で、昔のように一緒に酒を酌み交す機会が無くなったために、月1回懇親会を実施した。
 - イ 職場と署との意思疎通を図る。
 - (ア) 安全日誌を通じ、現場作業職員と、署担当係及び管理者と文書による交流を図った。
 - (イ) 署から現場巡視等の出張者と、極力昼食を一緒にとり、公私にわたる話し合いの場を持つようになった。
- (8) 林業技術の向上と職務規律の保持
- 民間林業労働者等から批判されない勤務内容と技術を持つよう、特に勤務態度の適正保持に努めた。

3. 成 果

- (1) 作業職員一人ひとりが進行状況に、興味・関心を持つようになった。
- 今迄に何㎡生産できたか、進行率はどうか、能率給の達成度はどれ位か、等の質問が多くなり、それを励みに班に活気が出て来た。

(2) 作業計画に対する関心が強くなった。

架設時の設備の位置、索張方法等に対して、作業主任以外からも意見が出るようになり、皆で検討し合いながら最良の方法を見い出すべく努力した。

(3) 私傷病休暇が減った。

各自が自分の健康管理について、認識を持つことによって、私傷病休暇が前年に比較して45%減となった。

(4) 事務所及び署管理者と意思疎通が図られた。

話し合いの場を多く持つことにより、良い意味で気軽に意見交換ができるようになり、各人の人柄を知ることができた。

(5) 一昨年の7月以降無災害で現在も継続中

本年度スタート時点は、ヤレヤレ的感觉の安全意識であったのが、無災害が続くに從って、サア、ヤロウ!!という気持ちに変わってきた。

4. ま と め

以上のような結果から、生産性の向上を、具体的数値を持って比較することはできないが、事業に参画した誇りと、責任を持つようになったことにより、職務意欲（生産意欲）の向上が図られ、無災害と私傷病の減少により、更に活気ある、明るい職場となった。

励みのある職場作り

作業計画への参画

- 仕事の役取りを全員が知る。
- 今日の仕事は必ずTBMで
- 作業方法を箱で検討する。
- 斬新しい山に向かう時は全員で山見をする。

作業進捗状況のチェックと対応策の検討

- 生産完了数量を常に知りたい
- 標準給がど水位いになて、いるかを知りたい。
- 週の目標をもと

意思疎通の場を広げる

- 学と詰レ合いの場をもつ
- たまには / パイ飲み
- 署管理者と気軽に話し合えない
- 月 / 回は専務所と懇親会をやる。

アイデアの閃発

- 改善意見を気軽に受け入れられる様にしてほしい
- 意見を頭からだめ / と言わないでほしい

健康で励みのある職場、やる気の起さる事業所をめざし生産性向上を計る！
く職務意欲の向上を計る

健康で安全作業

健康管理の充実

- 体が資本
- 体の調子が良いと、仕事も順調
- 病気になるにはなにもならない

環境の整備

- 休憩小屋はいつも水いにする
- 安全当番は休憩小屋の仲間、自分の持ち物は自分で整頓をする。

安全目標の設定

- 目標は必ず守る
- 身近な目標を持つ
- 各人が目標を背つて、守る。
- できる目標を持つ

林業技術の向上と職務規律の保持

- 管林署は仕事をしない、と言われないと頭にくる。
- 勤務時間を守る。
- 叔々はいっしょにけん命仕事をしている
- 民間の入りに負けない技術をもと